

ウォールストリートとメインストリートの分断 —分断の結末を見通す際に注目される「経済サプライズ指数」—

- ・ 足元で株式市場とマクロ経済の間に大きな分断（デカップリング）が生じています。
- ・ 直近の株価上昇を支えた要因の1つとして「経済サプライズ指数」の改善が挙げられます。
- ・ この「分断」が今後どのような形で解消されるかを見通すためには「経済サプライズ指数」の動きが有効な指針になると考えています。

急速に切り返す米国株式

S&P500は2月19日につけた高値から3月23日の底値まで33.9%下落し、その後、6月4日までに39.1%上昇しました（図表1）。一方、マクロ関連では、4月の失業率はリーマン危機時を上回る14.7%まで上昇し、5月はさらに上昇すると予想されています（図表2）。先行きに強気な株式市場（ウォールストリート）と足元で停滞するマクロ経済（メインストリート）の間に大きな分断（デカップリング）が生じています。

注目される「経済サプライズ指数」

この分断の背景には株式市場がコロナ後の経済の正常化や企業収益の回復を一定先に織り込み始めたことや、足元で企業景況感や消費者信頼感に底打ちの兆しが見え始めたことがありました。しかし、直近の株価上昇を裏で支えたもう一つの要因として「経済サプライズ指数」の改善を挙げることができると考えています。実際に発表された経済指標が事前予想を上回れば上昇し、下回れば低下する経済サプライズ指数は4月30日に底を打ち、その後はマイナス圏ながら改善を続け、直近はプラス圏に浮上しました（図表3）。

しかし、この「分断」がいつまでも続くとは考えられません。将来のある時点でマクロ経済が株式市場に追いつくか、行き過ぎた株式市場が調整することが想定されます。その結末を見通すためには新型コロナ「第2波」の可能性や米中関係、米大統領選の行方に加えて経済サプライズ指数が有効な指針になると考えています。3月下旬に経済サプライズ指数が下げ始めるタイミングで株価は大底を打ちました。今後、経済サプライズ指数がプラス転換したことで好材料出尽くしになったり、経済サプライズ指数がさらに上昇し、ピークを打つまで株式市場の上昇が続くことも考えられます。いずれにしても、しばらく「経済サプライズ指数」の動きに注目したいと考えています。

図表1 米国株式（S&P500）の動き



図表2 失業率の推移



図表3 経済サプライズ指数（Citi）



（図表1-3の出所）Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

以上（作成：投資情報部）

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの配分方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料: 購入価額 × 購入口数 × 上限3.85% (税抜3.5%)

- お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額: 換金時に適用される基準価額 × 0.3% 以内

- お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担
 : 純資産総額 × 実質上限年率2.09% (税抜1.90%)

※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

その他費用・手数料

監査費用: 純資産総額 × 上限年率0.0132% (税抜0.012%)

※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号: 岡三アセットマネジメント株式会社
 事業内容: 投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
 登 録: 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
 加入協会: 一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)